

湯 湾 岳 : 神 々 の 降 臨

奄美大島で最も高い山の湯湾岳は、標高 694 メートルあり、島の西側に位置する。また、伝説曰く、アマミコとシニレクと言う 2 人の神が湯湾岳の頂上に降り立ち、奄美大島が始まったとされており、島民には聖なる場所とされている。山は亜熱の広葉樹に覆われ、あたりに吹く厳しい風により、成長を妨げられているが、スダジイやイジュの樹冠の下には豊かな林床があり、野生のショウガやラン、コケ、木の実等、様々な固有種の動植物が生息する。木々からはルリカケスやオオトラツグミ等の多くの野生の鳥類のさえずりが聞こえる。

登山ルートは 2 か所あり、大和村側は階段が多めな 370 メートルの木道があり、駐車場から 70 メートルほど登った山頂近くに展望台がある。頂上付近の一带は国立公園の特別保護地区と指定され、遊歩道が終わり、山頂へ向かう区間は毒を持つハブに注意が必要である。